

職員研修「鯨っ子学習・生活科における『AARサイクル』の共有」の振り返り

はじめに

小学校総合部では、これまで小学校が続けてきた「鯨っ子学習」を土台として、児童が自らAARサイクルを回しながら探究学習に取り組む姿を目指す。そこで、「AARサイクルを生かした探究学習の取組（仮）」を総合部における研究テーマとし、ラーニングマップと資質・能力デザインの活用をその手立てとして研究を進めていく。本年度は、AARサイクルの捉え方を共有し、次年度はその実践と考察を行う。

先日行った研修の目的は以下のとおりである。

【研修の目的】

鯨っ子学習及び生活科において、児童がどのようにAARサイクルを回し、教師がどのような手立てを取りうるかについて考え話し合うことで、小学校全体で鯨っ子学習及び生活科におけるAARサイクルの捉え方を共有し、これからの鯨っ子学習・生活科の学習指導につなげる。

研修を通して、「ラーニングマップ」及び「資質・能力デザイン」とのつながりが明確になり、児童がAARサイクルを回しながら活動に取り組む鯨っ子学習の概要が見えてきつつある。

本研修を通しては、「ラーニングマップ」「AARサイクルのフレームワーク」「資質・能力デザイン」の関係を以下のように捉える。

①「ラーニングマップ」

②AARサイクルのフレームワーク

児童が自身でAARサイクルを回し、活動に取り組んでいくことが本研究のねらいである。児童がAARサイクルを回す際に、どのような行動が考えられ戸惑いが想定されるか、それに対して教師はどのような働きかけができるかをイメージして支援するための資料として活用する。

③「資質・能力デザイン」

まとめ

本研修を通して、総合的な学習の時間（探究学習）及び生活科における学びに向かう姿をAARサイクルのフレームワークで捉え、整理した。フレームワークを整理したことで、教師は児童の活動が見取りやすくなり、前研究で挙げた「ラーニングマップ」と「資質・能力デザイン」のつながりが明確になったと考える。教師が「ラーニングマップ」と「資質・能力デザイン」を意識し、フレームワークを通して児童に働きかけることで適切な指導や支援につながると考える。その際、児童も「ラーニングマップ」と「資質・能力デザイン」を意識して取り組むことができると、見通しと振り返りが明確になり、よりAARサイクルが回りやすくなるのではないかと考える（図1）。

また、児童のAARサイクルを円滑に回す手立ての一つとして教師の関わりや言葉かけについても整理することができた。教師が児童の状況から指導や言葉かけができるならば児童は児童自身のAARサイクルを回すことができるだろう。さらに、低学年・生活科においても、このAARサイクルの学び方は他教科等でも生かすことができると考える。低学年のうちから児童がAARサイクルを回すことを少しずつ意識できるならば、6年間の学びのつながりを見据えて中学年以降の探究学習に円滑につながると考える。

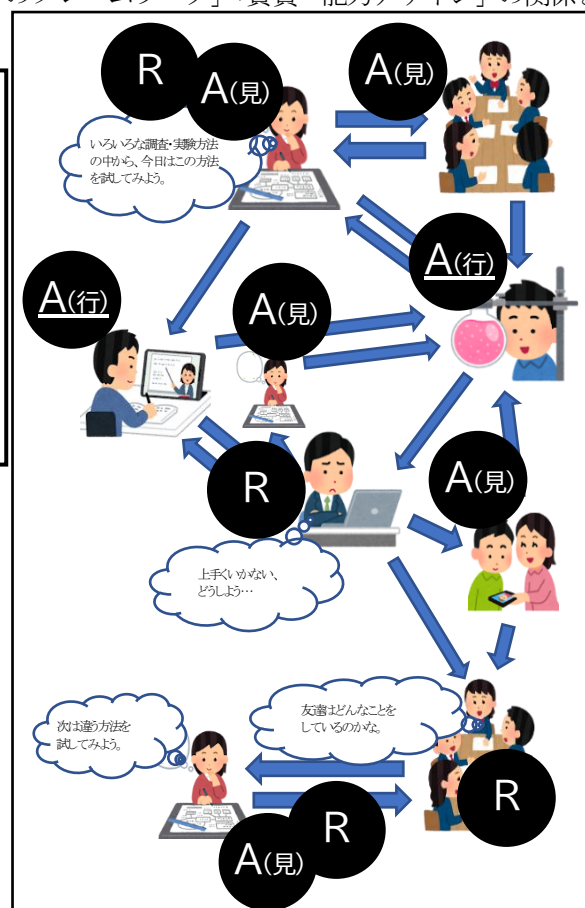


図1 児童がAARサイクルを回すイメージ

表 1 「資質・能力デザイン」

(2024年4月現在)

		レベル pre 1		レベル 1		レベル 2	
		小1	小2	小3	小4	小5	小6
知識 及び 技能	知識	・実生活の中で学習したことを生かすことができる。		・自ら設定した課題を解決するための必要な知識を理解することができる。 ・各教科で学習した内容を生かして取り組むことができる。			
	情報収集の技能	・ICT 機器を使って対象の画像を撮影することができる。		・人に聞いたり、図書館や ICT を活用して調べたりして、必要な情報を集めることができる。 ・収集した情報をノートやタブレット PC に蓄積することができる。 ・多様な方法で自分の目的や意図に即した情報を収集することができる。 ・収集した情報の種類に応じてノートやタブレット PC に蓄積することができる。			
思 考 力、 判 断 力、 表 現 力等	課題の設定	・疑問点を基に、教師又は友達と共にめあてを立てる。		・自分の興味・関心のある事柄に関する課題を設定している。		・自分の興味・関心のある事柄から課題を見だし、設定している。	
	リサーチ クエスチョンの 設定	・結果や成果を予想する。		・自分の興味・関心のある事柄に関する課題に対して仮説を立てることができる。		・自分の興味・関心のある事柄から見いだした課題に対して仮説を立てることができる。	
	仮説の設定						
	研究手法の選択 (研究計画作成)	・教師と共に観察や活動の計画を立てて、学習を見通す。		・解決に必要な調査方法を考えながら、計画を立てることができる。 ・いろいろな調査・実験方法を考える。 ・アンケートやインタビュー、実地見学の計画を立てる。		・解決に必要な調査方法や手順を考え、計画を立てることができる。 ・仮説を検証するための調査・実験方法を見通す。 ・どのような図書やインターネットの情報が 필요한のか計画を立てる。	
	調査・実験	・見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶ等身近な人々、社会や自然に直接働きかけている。		・いろいろな調査・実験方法を試す。 ・テーマやキーワードに沿った図書やインターネットを選ぶことができる。		・いろいろな調査・実験方法の中から、仮説の検証に合った方法を試す。 ・テーマやキーワードに沿った図書やインターネットを選び、適切な情報を得ることができる。	
	整理・分析	・教師と共に活動や体験を通して、対象から様々な情報を取り出すことができる。		・集めた情報に対して思考ツール(ベン図、クラゲチャート、ピラミッドチャート、コンセプトマップ等)や他教科で学習した方法を用いて整理することができる。 ・整理したことをもとに、情報にある特徴を見つけることができる。 ・自分の課題に対して、自分なりの結論を出すことができる。		・集めた情報に対して思考ツール等を適切に活用して整理することができる。 ・収集した情報を比較したり分類したり関連付けたりすることで、相互の関係を見いだすことができる。 ・自分の課題に対して、収集した情報から根拠をもち、論理的に結論を出すことができる。	
	まとめ・発表	・自分自身や自分の生活について考え、表現することができる。 ・言葉、絵、動作化、劇化などを用いて表現することができる。		・相手や目的を意識して、分かりやすい方法(レポート、新聞、プレゼンテーションソフト等)を選択し、まとめることができる。 ・足りない情報について再度調査・実験をし直すことができる。 ・他教科で培った表現力(文、図、グラフ、絵、声の大きさ、動作等)を生かすことができる。 ・課題設定での仮説と結論を比べることができる。		・相手や目的に応じて、分かりやすい方法を選択し、構成の仕方を考え、まとめることができる。 ・足りない情報について再度調査・実験をし直すことができる。 ・他教科で培った表現力等を適切に活用することができる。 ・課題設定での仮説と結論を比較し、文章で考察することができる。	
	振り返り	・学んだことを生活に生かそうとしている。		・学習の仕方を振り返り、他の学習や生活に生かそうとしている。		・新たな課題を見つけることができる。	
学 び に 向 か う 力、 人 間 性 等	探究的な 学習から得た 成果・気づき	・自分自身、身近な人々、社会や自然の特徴やよさ、関わりに気付いている。		・自ら設定した課題について探究的に学んだことにより、新しい知識を得たり、新しくできるようになったりした自分の変容に気付いている。 ・探究活動を通して、自分の生活を見直し、自分のよさを理解しようとしている。 ・探究活動を通して、自分や友達の意見や考えそれぞれによさがあることを知り、学び合おうとする。			
	将来展望 ・社会参画	・身近な人々、社会や自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしている。		・目標をもって課題の解決に向けた探究に取り組んでいる。 ・探究活動を通して、自分のこれからの生活について考え、夢や希望をもとうとしている。 ・探究活動を通して、生活の中で自分にできることを見付け、行動しようとする。			